

11-3

中学校 特別活動（生徒会活動）

指導事例

「生徒会役員選挙を活性化していこう」

【目標】

生徒会活動をととして、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てる。

【目指す子どもの姿】

自分たちの代表を自分たちで決めることをととして、身近な社会である学校と自分との関わりを自覚し、学校生活づくりに参画する意識を高める

1 活動の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

活 動 の 流 れ	ポイントになる学びのプロセス
<p>学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会活動が学校をよりよくするためのものであることを理解し、生徒会役員の意義や役割について理解する。 <p>選挙管理委員会の組織</p> <ul style="list-style-type: none"> 自発的・自治的な活動をするために、生徒会役員選挙の準備、広報活動、当日の運営に携わる選挙管理委員を各学級から選出する。また、選挙管理委員会において、委員長の選出や役割分担を決定し、組織的に活動するようにさせる。 <p>生徒会役員候補者の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> 立候補者には、生徒に選ばれた学校の代表として、どのような学校にしたいかを考えることができるように指導する。 立候補者以外の生徒は、それぞれが考える「よりよい学校」とは何かを考えることができるように指導する。 <p>立会演説会</p> <ul style="list-style-type: none"> 立候補者は学校の代表としてあるべき姿を示し、公約として発表ができるようにする。 立候補者以外の生徒は立候補者の発表を聞き、それぞれの「よりよい学校」についてさらに考えを深め、自分の意思を決定していくようにさせる。 <p>生徒会役員選挙</p> <ul style="list-style-type: none"> 選挙管理委員会を中心に組織的に運営する。 投票をする時には自分たちの代表を自分たちで決めることを意識させる。 	<p>ポイント1</p> <p>他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する</p> <p>ポイント2</p> <p>主体的に行動する</p>

2 政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

立候補者の考えを聞き、自分のこととして考えられるようにしましょう。

生徒会役員選挙では、生徒一人ひとりが生徒会の一員であることを自覚することができるよい機会です。学校生活の充実と向上を図る生徒会のリーダーを決めるものなので、立候補者の生徒のみならず立候補者以外の生徒にもよりよい学校とは何かを考えさせ、生徒の意識を高めていくことが大切です。

立会演説会では一部の生徒だけのものにならないように、立候補者以外の生徒が事前に立候補者の公約をよく読み、自分のこととして考えることで参加する意識が高まります。

また、立候補した生徒は、どのような学校にしたいのかを、分かりやすく聞く側の生徒に伝えることができるようにさせましょう。生徒の聞く姿勢や話し方を意識させる機会でもあります。



立会演説会の様子

ポイント2

自分たちの代表を自分たちで決める意識をもって、投票できるようにしましょう

投票では、立会演説会や立候補者の公約、広報活動等を参考にして、自分の考えで投票できるようにさせましょう。その際、自分たちの学校の代表を自分たちで決めることへの責任や心構えについても指導しましょう。

立候補した生徒の単なる人気投票やパフォーマンスを見て思いつきで投票することがないように、事前に指導することも大切です。生徒が落ち着いて投票できるよう、投票時間を区切って学級ごとに投票させる工夫も考えられます。

また、公職選挙で実際に使われている投票箱や記載台を活用することで、生徒の意識が高まり、活性化することが期待できます。各市町村選挙管理委員会の連絡先は70、71ページに記載されていますので貸出しを希望する時に参考にするとよいでしょう。

生徒会役員選挙後は、役員に選出された生徒のみならず、立候補者以外の生徒も、生徒会活動に参画することをとおして、よりよい学校生活づくりに関わる意識をもつように指導しましょう。



記載台を活用しての選挙の様子